

家族支援プロジェクト

～よりよい親子関係のために～
講演会 & 交流会



外来療育長（看護師） 岸野美由紀

発達障害児の療育のために、お子さんの他に保護者の方も元気になって欲しいという願いと、ご家族にも支援の手が必要だとの思いから作り上げた『家族支援プロジェクト』の第三弾として、『よりよい親子関係のために 勉強会・交流会』を12月13日(日)当センター厚生棟にて行いました。

当日は、4歳から12歳のお子さんをお持ちの28組のご家族が参加されました。

前半の勉強会は、多くの保護者が悩む『小さい子供に精神科の薬を飲ませることは必要なのか?』の声に対して、当センター児童精神科野村健介医師による『こどもの心の成長を助ける薬の話』と、保護者の思いが子供に上手く伝わらず、ついイライラしてしまう、怒ってしまっから言い過ぎたと反省する方々の対応として

国立精神・神経センター精神保健研究所 児童精神科 井上祐紀医師の『保護者のストレスを楽にする認知トレーニング』の講演でした。皆さん熱心にメモを取りながら聞いていらっしゃいました。そして、講演後『薬に対する不安がとれ楽になった。』『薬は必要だと思えた。』や『気持ちの持ち方を教えてもらえてスッキリした。』『夫婦喧嘩が減りそう。』という声があがりました。

後半の交流会では、錠剤の薬を飲ませる工夫（ビタミン剤で飲む練習をした）やイライラ対策（嫌な事を小さくして掌に乗せてフーッと吹き飛ばすとイメージすると、やり過ごせる）などの成功体験を笑顔で披露されていました。皆さん、和やかな表情で歓談されていました。

次回の企画は3月7日(日)『兄弟支援について』の予定です。



Q

いよいよもうすぐ1年生。
就学におけて、子どもに
何を身につかせたら
よいでしょうか？



A

梅の花に遠くない春を感じるこの時期、年長の子どもたちがとまどうことなく4月からの新しい小学校生活をスタートできるようにと願うのは、ご家族や園の先生方に共通する思いです。なかには、「授業中ずっと座ってられるようにならないと」「1人で朝のお支度ができるようにならないと」とお考えの方もいるかもしれません。

けれども、発達のステップを数段抜かしでのぼることはできません。むしろ、子どもへの要求水準を急に高くすることは、子どもにも大人にも負担を強いることになりかねません。どのお子さんも、長い集団生活の中で、確実に一段ずつのステップを積み重ね、成長されてきたのでは





摂食機能療法セミナー

言語聴覚士 岸 さおり

摂食機能療法セミナーは、平成17年4月より、昭和大学歯学部より岩間先生をお招きしてセンター内の摂食勉強会として始まったものです。特別支援学校や作業所、歯科医師会、通園施設の方々の参加が増えてきたことを受け「摂食機能療法セミナー」と名称を変え地域で障害児・者を支える方々との共通理解を深める場として現在に至っています。

セミナーは年間8回、摂食・嚥下に関するテーマ(小児から老年期まで)の講義と実際の症例(他施設、学校などのケース)を通して評価や対応などを検討するビデオセミナーの2部構成で行っています。

12月10日のセミナーは「摂食・嚥下機能障害に対する訓練法と実技」がテーマで約50名の方が参加されました(遠くは福島県から)。講義の内容は食べ物を用いずに嚥下器官に刺激や運動を加えることで嚥下機能を改善させる訓練法(間接訓練)、食べ物を飲み込むことで嚥下を上達させ改善させる

訓練法(直接訓練)、口腔ケア、姿勢についてでした。

今回は、実技指導もあり間接訓練法の一つのバンゲード法(頬、唇、舌訓練)を行いました。バンゲード法は食事の前に口周辺の筋に他動的に刺激を加え動かしやすくするのに有効で誰にでもできる訓練法の一つです。参加者が二人一組になり、やり方を実習しました。

ビデオセミナーは学齢期のダウン症のお子さんのケースが紹介され、摂食・嚥下機能の評価と食事の形態、具体的な指導方法についてアドバイスがありました。また、特別支援学校の管理栄養士から学校での食形態についてビデオを使って説明がありました。同じペーストでも食材によって調理方法を工夫していることや形態食に適した食材を選択していること等貴重なお話を聞くことができました。

来年度も摂食機能療法セミナーは継続の予定です。ビデオセミナーへ症例を是非ご紹介下さい。



ないでしょうか。小学校に行っても、その歩みは続いていきます。ですから、子どもがもう少しで身につけられること、その子の発達にとって次のステップとなることを見つけ、あせらず取り組んでいきましょう。

むしろこの時期大切なのは、一人一人の子どもの得意なところとまだ練習中のところを把握し、「時計の針で予告してあげれば遊びから切り替えられる」「困ったことがあったら先生に助けを求めよう練習している」など有効な手助けの方法を再確認すること。園の先生や療育担当者、「就学支援シート」や、子どもの様子や配慮の必要な点をまとめた「サポートブック」などのツールを使って振り返ってみてもよいでしょう。

もし、何かを身につけさせてあげるとしたら…「お友だちとたくさん遊べてよかったな!」「先生にいろんな遊びや工作を教えてもらってよかったな!」「小学校に行っても楽しく勉強したいな!」と子ども自身が達成感をもって卒園できること、つまり『自信』『意欲』を身につけさせてあげられれば何よりだと思います。(心理判定員 眞田恵)



ぜひ

お越しください～今後のイベント～



発達支援センター 心理相談室 第6回 講演会

発達障害の子どもの心を支える～家族で、地域でできること～

[日時] 平成22年1月31日(日) 13:00～16:00

[場所] 島田療育センター 厚生棟 [定員] 150名(要申込) [参加費] 無料

[プログラム] 13:00～14:30 講演 山崎晃資氏(目白大学) / 14:45～16:30 事例検討・質疑応答

平成21年度 公開シンポジウム 施設の声から～障害者施設の行く末を考える～

[日時] 平成22年2月11日(祝・木) 13:00～16:30

[場所] 島田療育センター 厚生棟

[定員] 100名(要申込)

[参加費] 無料

[プログラム]

基調講演 佐藤進氏(埼玉県立大学 学長)

「政権交代とこれからの障害者福祉

…共生の地域社会づくりにおける施設の役割を考える…」

シンポジウム

大石雅也氏(NPO 法人ブレイルームゆづり葉の家 副理事長)

春日俊介氏(社会福祉法人 啓光福祉会啓光学園 施設長)

宮島伸子氏(社会福祉法人 夢ふうせん 代表)

河島洋征氏(島田療育センター父母会 会長)



多摩地区 医療的ケアセミナー

[日時] 平成22年3月6日(土) 13:00～17:20

[会場] 島田療育センター 厚生棟

[対象者] 障害児者に関わるすべての職種

[参加費] 無料 [申込み方法] FAX、メール、HP のフォームより

[プログラム]

1. 呼吸障害とその対応について

(島田療育センター小児科 小沢浩)

2. 摂食について

(都立府中療育センター小児科 渥美聡)

3. 消化器系の特徴とその対応について

(都立東大和療育センター小児科 曾根翠)

4. 重症心身障害児が地域で生活するために

(東京小児療育病院小児科 奈須康子)



上記の事業は、東京都障害者地域生活促進強化事業の対象として実施しております。

生活支援室よりお知らせ

スヌーズレン講習会

[日時] 平成22年3月26日(金) 16:30～19:45

[対象] 近隣の施設職員の方

[場所] 島田療育センター 厚生棟

[参加費] 100円

スヌーズレンって？

重度知的障害のある方々との関わり
の理念として発展してきました。
くつろぎと探索が含まれる活動で、生
活の質の向上を目的としています。

これらの催しのお問い合わせは…

地域連携情報室へどうぞ



TEL:042-374-2101 (問い合わせ時間 平日9:00～17:45)

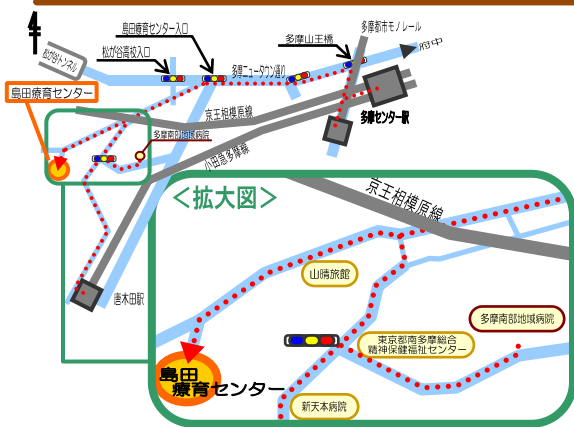
FAX:042-374-2089

※E-mail とURLは下記をご参照ください。

編集後記

第1号の創刊から13年!!近く経ち、今号はNew ネットワークしまだとして皆さまへ発信することができました。地域のニーズに即した、新しい『ネットワークしまだ』として“チェンジ”しつつも、これまで積み上げられてきたものも大切にしたいと思っています。年度末は、講演会等がたくさん企画されています。皆さまのお越しをお待ちしております。

編集: 社会福祉法人 日本心身障害児協会
島田療育センター 支援部 地域連携情報室
住所: 〒206-0036 東京都多摩市小沢 1-31-1
電話: 042-374-2071(代表)
E-mail: info-room@shimada-ryoiku.or.jp
URL: http://www.shimada-ryoiku.or.jp



〈徒歩〉
多摩センター駅下車
→約20分

〈バス〉
多摩センター駅
バスターミナル12番乗り場
「南部地域病院」行き
→約7分
終点「南部地域病院」
→下車 徒歩5分